

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2018年7月20日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

http://www.chuoh-kyouiku.co.jp



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.77 <学習塾の仕事の本質を理解するためには>

読者の皆さん！皆さんは、教育の勉強をどのくらいしてきましたか。また、今もしていますか。

学習塾という仕事の本質を理解するためには、教育に関連する知識、教育行政に関する知識、そして、人間に対する知識が、どうしても必要ではないでしょうか。

もし、学習塾経営を軌道に乗せる、または発展させると言うなら、自分の仕事に対して、本質的な理解がどうしても必要だと思えます。そして、私は出来れば、次の3つについては、学習塾経営に携わる限り、勉強を続けた方が良いと思えます。

1. 教育そのもの
2. 教育行政の流れとその未来
3. 人間について

まず、「教育そのもの」とは、教育哲学や教育社会学に関するもの。いわゆる「教育とは何ぞや」という問いに対する今までの英知です。人間だけが教育を必要とする動物である以上、この教育そのものについて徹底的に考えることです。そうすれば、結果的に人間観も培われていくものです。

ぜひ、教育に対して、自分なりの答えを出す前に、様々な思索を追い、ある程度の知識をもって、自分なりの仮説形成を行い、現場での実践を繰り返して、自分なりの教育観という答えを見つけてください。そして、その教育観を自分の言葉で自分なりに表現出来るようになってください。

自身の教育の定義が数年たっても変わらない塾長に、私はよく、「全然勉強していないじゃないか！」と叱りますが、教育観はどんどん変化をし、深化していくことが勉強の証です。また、学校＝教育という図式に囚われている限り、本来の意味での教育を理解することは出来ません。ぜひ、真摯に根気強く教育の本質と向き合ってください。

次に「教育行政の流れとその未来」ですが、明治時代にスタートした学制から戦後の学校制度の歴史の理解と、今後の教育行政がどういう方向へ向かっているか、ここを勉強してください。

例えば、明治時代になってから、徴兵令よりも1年先に学制が発布された意味を御存じでしょうか。学制が先行したのは、言葉の統一と身体訓練の統一が狙いだったのです。本当は、学制を徴兵令よりも10年先行させてから、徴兵令を敷きたかったのですが、国際情勢がそれを許さなかったのです。

また、近代学校が生まれた理由を御存知でしょうか。偶然の産物で近代学校制度が生まれたわけではありません。その辺の経緯を知ることで、実は教育と学校が、全く違うものなのが理解出来ます。そして、いま行われている教育行政が何を目指して行われているのかも大体見当がつかます。ぜひ、教育社会学系の本も読んでください。

私はよく、「文科省がやらない！と言ったことは、数年経つと必ずやる！」とセミナーや講演で言いますが、それは、教育行政の歴史から見ているからです。前もって文科省がやらないということは、いつかやるという含みを持たせている場合が非常に多いのです。小学校の英語の教科化然り、道徳の評価化然りです。ということは、高校生のための学びの基礎診断がAO入試や企業の採用試験の資料に使われないと文科省が言うのは、使用する可能性があるということです。このように教育行政をしっかりと見ていく時、国における学校制度や教育そのもののあり方が分かってくるのです。

最後に「人間について」ですが、これはずばり、人間とはどういう存在かということの勉強です。人間は、本能の壊れた動物だと言われますが、それは、逆に言えば、教育が必要な動物だということです。そして、人間は、この本能が壊れているからこそ、感情だけではなく、理性が発達する余地が出来、様々な矛盾にさらされるのです。

人間だから、これぐらいはわかるよなと思う反面、人間だからこそ、こんな間違いをしてしまうんだよなということです。そういう視点が人間についての理解を深めます。人間についての理解が深まれば深まるほど、人間観が大きくなっていくのです。子どもを見る目を養い、子どもが大人になっていく仮説をしっかり持つ。そのために人間について勉強をしてください。特に、心理学系の本を読んでほしいと思います。

今回は、具体的にあれを勉強しろ、これを読めとは言いませんでした。皆さんの気になる書名を見つけて、よりよく社会を理解する、または深めるためのスタートをぜひ切ってください。皆さんの人生観・世界観・人間観を豊かにしていきましょう。皆さんの塾に来る子どもたちに良い刺激を与え、この先生と巡り合っただけでよかったな！と生徒や保護者が思うために。

【編集後記】

8月4日(土) 教師サポートセミナー@渋谷にて中土井が講演いたします

MBAが運営するNPO法人ピースコミュニケーション研究所主催「教師サポートセミナー」にて、中土井が「子どものやる気を引き出す授業スキル」をテーマに講演いたします。中土井の実際の講演を聴きたいという方は、ぜひ、会場までお越し下さい。(参加費無料・要事前申し込み)

■8/4(土) 渋谷サンスカイルーム 13:00~16:40

参加費：無料

▽セミナー・研修詳細はコチラ▼

http://www2.tbb.t-com.ne.jp/peacecomken

▽お問合せはコチラ▼

TEL 045-651-7030 Mail: peacecom@tbu.t-com.ne.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.41

2020年度高大接続システム改革の認知度について、ずいぶん興味深い調査結果が先ごろ発表されましたのでご紹介しましょう。

河合塾がこの5月、大学受験を予定している中1生～高2生の男女500人（各学年男女各50人）と、かれらの保護者500人を対象にアンケート調査を行ったところ、次のような結果が出たそうです（学校法人河合塾「2020年度大学入試改革に関する意識調査」18年6月28日）。

●2020年度に大学入試改革により入試が変わる（センター試験廃止など）ことを知っていますか？

	知っている	知らない	具体的にはわからない
保護者	59.2%	11.6%	29.2%
生徒	49.0%	21.8%	29.2%

「知っている」のは保護者の6割、生徒の5割でした。

生徒のほうは中1、中2という、大学入試など遠い先のこととは思えない子どもが含まれていますから無理もないかもしれませんが、大人である保護者にとって4、5年はすぐ先のこと。わが子を大学にと考えている保護者としては、ちょっと淋しい認知度ですね。

とはいえ、保護者も生徒も、志望大学の難易によって認知度は異なっているようです。「知っている」と答えた割合をみてみましょう。

	保護者	生徒
旧制帝大	<u>76.4%</u>	<u>81.1%</u>
国公立医学部	<u>68.8%</u>	<u>65.2%</u>
その他国公立	57.9%	64.5%
難関私大 (早・慶・上智・明治・青学・立教・中央・法政)	64.4%	60.3%
私大医学部	50.0%	<u>66.7%</u>
その他私大	60.4%	63.9%
未定	43.8%	45.2%

65%以上が「知っている」と答えたのは、旧制帝大と国公立医学部を志望大学にしている保護者と、旧制帝大、国公立医学部、私大医学部を志望大学にしている生徒でした。

なかでも旧制帝大を志望大学にしている保護者の76.4%、生徒の81.1%が「知っている」と答えているところを見ると、やはり難関大学を目指す保護者・生徒ほど認知度が高いと考えてよさそうです。

ところで、では保護者や生徒は、そうした情報をどこから仕入れているのでしょうか。

●主な情報源は何ですか？（複数回答）

	保護者	生徒
塾や予備校主催の説明会	<u>40.7%</u>	<u>34.2%</u>
学校の説明会	<u>33.8%</u>	<u>44.0%</u>
受験対策のポータルサイト (日本の大学や塾ナビなど)	<u>31.2%</u>	23.1%
受験案内や情報誌	30.7%	25.0%
オープンキャンパスや 大学の公式ホームページ	26.8%	31.5%
学校の先生、同級生から聞く	23.8%	<u>42.6%</u>
マスメディア (テレビ、新聞、雑誌)	16.9%	8.8%
SNSやコミュニティから収集	14.7%	11.1%
塾や予備校の先生・チューター	6.5%	16.7%
その他	0.4%	0.0%

保護者のトップが「塾や予備校主催の説明会」、2番目が「学校の説明会」、3番目が「受験対策のポータルサイト」、生徒のトップが「学校の説明会」、2番目が「学校の先生・同級生」、3番目が「塾や予備校主催の説明会」。

われわれ塾が主催する説明会は、保護者・生徒双方にとって貴重な情報源になっていることがわかります。

前回もお話したことですが、塾は生徒に知識を伝授し学力を付与する「教育機関」であるだけでなく、生徒・保護者含めた「会員」に教育情報を提供する「情報機関」でもあることを再認識していただきたいと思います。